

# NPO法人 底上げ 年間活動報告書

2015年4月～2016年3月







矢部 寛明 Hiroaki Yabe

NPO 法人底上げ理事長

2011年早稲田大学卒業。  
震災後、内定先の会社を辞退し気仙沼入り。  
物資支援、被災地区あったホテルの再営業  
支援、学習支援を行う。現在は、東北、気  
仙沼を中心に「何かしたい」と強く思う若  
者をサポートし、インベーターを数多く育  
成、輩出している。

座右の銘は「行動はメッセージ」

震災から5年という節目の年。まずは活動を継続して行えてきたことを喜ばしく思うとともに、多くの支援をいただいた皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。  
この場をかりて御礼申し上げます。

僕たちが5年間活動を行ってきたこと。それは一言でいうならば「人づくり」です。  
少し横柄な言い方ですが、新しい教育の形をここで作っています。地域を愛し、地域で活動する人材が生まれる新しい仕組み。そんなことをキーワードに試行錯誤してきました。

より多くの子どもたちに地域に対して愛着を持ってもらいたい。  
今年からスタートした底上げ Drinks もそのひとつです。

高校生と接していると、「ここには面白い仕事がない」と語る子が多いことに気がつきます。  
一方で、僕たちは素敵な大人をたくさん知っている。  
そんな高校生と大人を交流する場を作りたいと思い始めたのが底上げ Drinks です。  
毎月1回食事をしながら集う場所。気兼ねなく、肩肘張らず、ゆるい空気が流れています。  
本年は11回開催し、270人が参加しました。(P.10-11)  
参加した高校生からは、「実は大人でも地域のために活動してる大人はいて、そういう大人が実は母校の先輩だったりして、Drinks は町の大人と語れる貴重な場です」と語ってくれました。

まだまだ小さな取り組みですが、少しずつ着実に多くの子どもたちを巻き込みながら活動を続けていきたいと思っています。

今年も、語りつくせないほど多くのことがありました。  
本年度の報告書、ご一読いただければ幸いです。

矢部寛明

# *Sokoage Philosophy*

できる感覚を、うごく楽しみを、生きる喜びを全ての若者に



# 事業構造

## 育てたい人材像

- ・ 自らの問題意識に対し主体的に行動できる人材
- ・ どんな課題に対しても前向きに乗り越えられる人材
- ・ 新しい価値を創造し地域に貢献できる人材



P.5-6

## 高校生サポート

高校生が自ら考え  
主体的に行動に移すための伴走を実施

P.7

## フリースペース

平日の放課後に高校生が自由に集まり  
想いを共有する場を開催

P.9-10

## 底上げ Drinks

地域の高校生と大人が食事をしながら  
交流する場を開催

P.11

## 学習コミュニティ広場

仮設住宅の集会所を借りて小中高生が  
放課後にあつまる場を開催

Project  
01 高校生サポート

## 仲間と共に主体性をもって作り出す新しい町づくり

高校生が自分たちの町のためにできることをひたすら考え、行動していく。その中で最も大切なのは自分が本当にそれをやりたいかどうか。常に高校生の自主性と主体性を尊重し、自分の思いを表現できる場を作り、多様に富んだ時間を共に過ごし、近い距離で共に走る伴走者として高校生が自ら考え動く力を支えています。気仙沼では底上げ Youth が、南三陸では COM が高校生団体として活動しています。

	気仙沼	南三陸
年間活動回数	32	58
延べ参加人数	80	173



2年間 COM で活動してきて最初は人と関わることにすら苦手な私でしたが、交流会を通じてたくさんの人と話すことができ、今では人と話すことがとても楽しいです。自分の苦手なことに向き合える機会をくださった方々には本当に感謝しています。また、将来「南三陸で仕事がしたい」と思うようになりました。そう思えたのは今の自分を作ってくれた底上げのみなさん、COMのメンバー、これまで関わってきた方々の支えのおかげです。現在、仙台でできることを探して前向きに頑張っています！



「高校生のうちにこんなにたくさんの経験が出来てうらやましいな。」初めて会った大人の方によく言われる言葉です。本当にその通りだと思います。私は Youth に入ってからまだ半年ですが、数えきれない「初めて」を経験しました。10年以上住んでいる気仙沼の今まで体験したことのない自然の力を感じたり、同世代の違った価値観に触れたりこの半年は私を大きく成長させてくれました。この経験が出来たのも底上げのみなさんがいてくれたからこそだし、本当に尊敬しています。底上げって想像以上にすごいです。



Mei Saito  
齋藤芽依  
気仙沼高校 3年

私の変化は、やりたいことを言葉から行動に移せるようになったことです。以前は、自信がなく行動を諦めていたけれど、今は底上げの“否定しない空気感”で自分を肯定でき、楽しみながら動いています。他にも、活動で様々な年代や地域の人と触れ合うことで広い視点と軸が身につく、夢を見つけることができました。Youthの活動を通して、自分の変化に気づけたのが一番の成長だと思います。



Mai Abe  
阿部舞  
志津川高校 2年

私はCOMで活動してきてたくさんの方のことを学び、たくさんの方と出会いました。COMには入っていなかったら出会えなかった大人や大学生がいて、今でも交流が続いている人もいます。COMでは自分で考えたり、その考えをいろいろな人の前や場で発表できるので、自分にとって良い経験になっています。様々な経験ができて、たくさんの方の出会いがあり、自分の成長にも繋がるCOMが私は大好きです。



底上げは気仙沼の希望です

— 志田淳 気仙沼在住

# Project 02 フリースペース

## 何かを踏み出す土台になる子どもたちの安心安全の場

フリースペースとは、週2回、平日の放課後に高校の近くにあるコミュニティスペースで高校生が自由に集まれる場です。集まった高校生と、勉強をしたり、学校・家庭生活のことなどを話しています。なんでも話せる環境を整え、子どもたちと関わっていくことで彼らと信頼関係を構築しています。

	気仙沼	南三陸
年間活動回数	70	87
延べ参加人数	180	484



## 底上げユースの取り組みがまさに未来を作る

—気仙沼市立面瀬小学校 阿部正人



Mika Yoshida  
吉田美夏

一般社団法人 コ・エル 理事

高校生団体 底上げ Youth の活動場所として事業所を使っていたいただいております。毎週、賑やかに高校生とナルの笑い声がかすかに聞こえているわけですが、私としても「まさか Youth がこんなに続くとは、..」と感じております。というのも、初代の高校生から、ずっと陰ながら見てきました。毎年「新しい子はどんな子なんだろう」と密かに、勝手に（笑）ワクワクしております。これからも、Youth の活動を陰ながら応援していきたいと思っています。



Kaori Sato  
佐藤かおり

志津川高校2年

中学校の時に世話になっていた NPO 法人 キッズドアの人にメールしたのがきっかけでフリースペースのことを知りました。最初行った時は何をしているかよくわかりませんでした。けれど、雰囲気良く、来ている人たちが優しくしたので何度も行くようになりました。私にとっての楽しい場所が増えて嬉しかったです。

Project  
03 東北高校生交流会

New  
新事業

### 横の繋がりから生まれる大きな可能性

東北沿岸部の高校生を中心に、伴走者である大人たちも含め、話し合いを行う場です。同じような思いをしたことがあるからこそ、たくさんの共感を得ながら刺激し合うことができています。新しい繋がりから、学びを多く得ることができ、大きな可能性が生まれ、それぞれが歩みを進める推進力となっています。



Miyuki Kato  
加藤美幸

志津川高校2年

COMという高校生団体を通じて、様々なことに参加しました。ただ最初は友達に誘われて楽しかったから行く、という気持ちで参加していました。しかし、参加しているうちにこのキラキラした団体に入りたい、何かやってみたいと思いました。前の自分とは少し違う自分を実感しています。高校生交流会は初めて私から行こうと思ったイベントでした。他の学校の高校生と交流し沢山の刺激を貰えました。私にとってとても良い交流会になりました！



Emi Okazaki  
岡崎エミ

東北芸術工科大学  
コミュニティデザイン学科准教授

「楽しい!」「ワクワク」。これが、高校生がNPO法人底上げのプログラムに参加する理由であり、続ける理由だと思います。とかく地域づくりは、「～ねばならない」という義務感が先に立ちがちです。しかし、本来「人のために役に立てる」ということは、自分もみんなも幸福が増す行為。それを軽々とやって見せ、あっという間に高校生を巻き込んでいく底上げの凄さに、驚きとともに感謝しています。底上げに育てていただき、本学に進学した学生は、今もお高校時代に得た、熱い魂を持ち続け学んでいます。こうした若者が東北から生まれ、東北から日本を変えていく。ぜひ一緒に頑張っていきましょう！



## 希望の一步を進めてくれる

一菅原規利 カフェ パースデーズオーナー



Project  
04 底上げ Drinks **New 新事業**

多様な人との関わりでつくる新しいコミュニティ

底上げ Drinks とは月 1 回、町内の高校生と大人を中心とし、食事をしながら交流する場です。高校生と地域の大人が関われる機会が少ないと思い、2015 年 10 月より開始しました。会の中で高校生と大人に新しいつながりが生まれ、高校生が地域で育てられる環境ができつつあります。

	気仙沼	南三陸
年間活動回数	6	5
延べ参加人数	153	119

	気仙沼	南三陸
高校生	32	23
地域の大人	67	64
地域外の大人	54	32



底上げに  
人としての力を「底上げ」された

— COM OB 阿部一樹



Taiga Komatsu  
小松大河  
気仙沼高校 3年

底上げ Drinks は僕たち高校生にとって多様な大人と関われる貴重な場です。家と学校を往復するだけでは決して会うことはなかった地域の大人達と関われる唯一のプラットフォームだと僕は思います。ここで得た学びやつながりを今後の人生、また後輩達に繋げていきたいと考えています。



Shun Kobayashi  
小林峻  
一般社団法人まるオフィス  
理事

底上げ Drinks には何度か参加させて頂いておりますが、毎回とても楽しい数時間を過ごさせて頂いています。下は高校1年生、上は30~40代の多様な人たちが一堂に会し、会話ができる場所は、市内のほかのどこにもない場だと思っています。特に大きいのは、そんな多世代が集まっていながら、全員がフラットに会話ができる空気があり、高校生だけではなく、大人側も多くの学びや気づきを得られるところです。これからもがんばってください！



Matsutaka Abe  
阿部松貴  
株式会社丸水機城店

私の初参加は11月の底上げ Drinks でした。ドローンフライトは書類が通らず難航しましたが、四回の底上げ Drinks で皆さんの空撮影が撮れました。ドローンもいろいろなイメージがあり、良さが伝わるかとても不安でした。でも皆さんに「すごい」とか「キレイ」とか言っていただきとてもうれしかったです。参加者の中にドローンに興味のある方もいて、ドローンの未来について熱く語り合うことも出来ました。今後もこれまでどおりドローンなど使って記録という面で協力していきたいと思っています。



Katsunari Sugawara  
菅原勝成  
志津川高校 2年

友達に誘われたのが底上げ Drinks に参加したきっかけでした。行ってみると、普段あまり関わらない大人の方や、高校の先輩などたくさんの方がいました。戸惑いが少しあったけれど、初めましての地域の方と話したり、高校の先輩が地域で行ってる活動にふれるなど、普段学校に行っているだけではできない経験をしている気がします。とても賑やかで楽しい場なので、今後も参加していきたいと思っています。

# Project 05 学習コミュニティ広場

## みんなで集まることができる放課後の自分たちの居場所

仮設住宅の集会所を借りて小中高生が放課後に集まり、スタッフが一緒に遊んだり勉強をしています。ボランティアとして参加する大学生も、子ども達の身近な存在として、進路相談を受けるなど良い関わりを作ることができています。安心できる基地のような場所として、子ども達にとって貴重な時間を作っています。

	気仙沼	南三陸
年間活動回数	80	40
延べ参加人数	1500	326



Seiko Takasu  
高須せい子

参加者保護者

息子が底上げさんと出会ってから5年ほどになります。今日現在も仮設住宅の集会所で、学習支援でお世話になり続けています。底上げの方々、そこに携わっている方々が、5年前から今日まで、勉強も遊びも、毎回全力で汗だく(笑)でコミュニケーションをとり続けて下さっていることは、「最も自然なかたち」で知らず知らずのうちに子どもたちの心のケアに大きく繋がっていると思います。本当にありがとうございます。今後も様々な場面で世話になり続けると思います。よろしくお願い致します。



Hiroki Kanda  
神田大樹

一般社団法人 i.club  
スタッフ

学習コミュニティ広場を通して子どもたちと接していると、彼ら彼女らが成長していく過程で、何かを教えるというよりも、種々の主体的な気付きへの“きっかけ”を与えてあげられるような存在が求められているのでは、と感じます。先生でも親でも友達でもない立場からひとりひとりに向き合い寄り添うことで、子どもたち自身も、多様な考えに出会い、その中から多くを学びとれる場にしてほしいと思います。



底上げさんの活動は「行動と傾聴」

—山田美保子



Project  
02 **ロールプレイング気仙沼**

仲間と共に気仙沼で"楽しい"を生み出す

卒業して気仙沼を離れても、地元のためにできることを考えたい。楽しいと思えることを、仲間と一緒に生み出したい。そんな熱い思いを持ち続けている気仙沼出身の大学生を中心に始まったプロジェクト。ゲーム感覚で楽しめる町歩きを企画しています。観光客に気仙沼の魅力を楽しく知って、その素晴らしさを実感してもらうことができている。



Maki Onodera  
小野寺真希

底上げ Youth OG  
東北芸術工科大学  
コミュニケーションデザイン学科 3年

ロールプレイング気仙沼を通して、気仙沼から離れて暮らしていても、地元のためにできることがあるんだと実感することができました。そして何より、高校時代の仲間と、大学生になった今も共に活動できる喜びと楽しさを感じています。また、私たちの活動を応援してくれる地元の方もおり、とても心強いです。今後も大好きな仲間と、大好きな気仙沼で活動を続けていきたいと思っています。



「底上げ」スタッフから、  
本気で接することで子どもたちが変わり  
地域の未来が変わっていくことを  
教えてもらった  
— 気仙沼市議会議員 今川悟



Project  
07 農業部

茂木の里山で自然の恵みを感じながら  
お米づくりと野遊びを楽しむ

底上げ農業部は、「食と農の意識を“底上げ”する」をテーマに、栃木県茂木町にて農作業体験の機会（主に、田植え、草取り、稲刈りの田んぼ作業体験等）を提供しています。参加者は、子ども、家族、学生、社会人まで幅広いメンバーで、参加者自ら企画・運営をしながら、食と農のコミュニティづくりをしています。

イベント回数	24
延べ人数	281



底上げは地域にとって、  
日本にとって、  
根から変革を起こして  
いるように見えます

— 光永志乃布



Tarafu Ootani  
大谷たらふ

2012年の冬から、この底上げ田んぼに行くようになりました。普段は絵を描く仕事をしています。

そもそも、子供の頃から敏感すぎて人と関わるのが苦手という気質の結果、今のような仕事をしているので、4年もこのような場に参加できているということが自分でも不思議です。

「楽しい」ともちょっと違う、この心地よさはなんなのか。「本当はこう生きたいのだけれど、ブレーキがかかってしまう」ということが誰にでもあると思うのですが、そのブレーキを弱めるきっかけが見つかる心地よさなんじゃないかと最近感じています。

そういう刺激ももらえる人がそこにおいて、田んぼではみんな平等に一緒に泥スूपになって、もとの生活に帰る頃には自分の中にちょっとした気づきが生える。

底上げ農業部は、農作業を通して、自分の本当に行きたい道を再確認して一歩踏み出せるような、そんな場所だと思います。





## 1 世界の非営利 110 団体に選出！



米国のマイクロソフト社が、教育や保健などより良い世界を目指す計110の非営利組織に対して、計1000万ドルを投資して「世界のアップグレード」を手助けするキャンペーンを実施。底上げがその一団体として選ばれました。

## 2 5 years が 完成しました



震災から5年という節目の年に、底上げが関わってきた皆さまより文章を寄稿していただき本にまとめました。底上げスタッフの宝物です（感謝）

## 3 底上げカー& 底抜けハウス 引退！

2012年からいつも一緒に歩んできたパートナー2人が、この度引退となりました！お別れは寂しいですが、これまでの感謝の気持ちを胸に新しいパートナーと頑張ってまいります！  
ありがとうございます！



## 4 矢部結婚しました (照)



# 5 矢部、野田、アメリカへ!

2011年よりSoftbank株式会社が社会貢献事業として、福島・宮城・岩手の高校生を対象に「TOMODACHI サマー ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム」を行っています。毎年、100人の高校生(2011年は300人)が、3週間アメリカのカリフォルニア大学バークレー校で、「Y-PLAN」という地域課題を発見、解決するプログラムを学びます。矢部と野田は最終週の高校生のサポートとして現地に向かいました。



## アメリカ伴走記

高校生より10日遅れでアメリカに到着しました。目の前には100人の高校生。いきいきとした眼差しは今も忘れられません。ひとりひとりに感動体験があったことがすぐにわかりました。初めて自分の地域を離れ、新しい仲間とこれまでとは全く違った環境で刺激的な学びを得たのでしょう。

私たちの現地での役割は高校生が帰国してから行動を起こすために地域の情報の補足することや、どう行動していいのかわからない高校生のメンタリングなどでした。また、高校生が帰国してからのサポートも各地域の方と連携して行いました。

高校生と合流してからは、彼らと一緒に地域

のことを考えました。彼らはこれまで自分の地域について深く考える機会が少なかったので、アイデアを出すのに難航しているようでした。できる限りの情報を提供し、アクションが具体的になるように努めました。その過程から感じたことは、行動を起こすためには知識が必要で、今ある知識で行動を起こし、また足りない部分を知識として蓄えて行動を起こす。インプットとアウトプットを交互に繰り返すというのは学びの本質のような気がしました。

仕事として高校生の学びを手伝う者としても非常に勉強になりました。「Y-PLAN」が作られた経緯や内容を教えていただきました。「なぜ若者に社会参画が必要なのか」「どうしたら

若者が社会参画できるのか」、「若者が社会参画していく上での心理的な側面」など。これまで南三陸でやってきたこととの共通部分があったり、南三陸特有の部分も知ることができました。共通部分は論理的に文字にされており、これまでやってきたことがきちんと自分の中に取り込むことができました。

このほかにも高校生と関わるだけでなく、多くの関係者の方と一つのものを作っていくことの難しさなど、多岐にわたる学びと気づきを得ることができました。心から御礼申し上げるとともに、この学びを未来を担う子どもたちに還元していきます。

野田篤秀

## 2016年 新規事業ご報告

### 1 志津川高等学校学習支援

2016年4月より南三陸町、志津川高等学校校内にて学習支援を開始します。



Shougo Yamauchi  
山内松吾  
志津川高等学校 校長

本校の特徴でもある幅広い学力層の生徒へ応じるためには地域の方々が必要です。町を盛り上げることに学校としても参画し、地域一丸となって南三陸の未来を作っていければと思っています。

### 2 Sokoage Camp

大学生向けの研修プログラムを開始します。「理想を語ろう、理想になろう。ここ東北で」というテーマで自身のあり方を問います。

6月中旬募集開始、プログラムは8月22日～28日に実施する予定です。

# 対談

矢部寛明 (中央) : 底上げ理事長

佐藤慶治 (右) :  
宮城県南三陸町出身。震災により自宅を流失。  
2012年4月に仙台の大学に進学。フィンランドでの一年間の留学を経て、2016年3月より南三陸町観光協会に勤務。

吉田真莉実 (左) :  
宮城県気仙沼市出身。震災では家族や自宅には被害なし。2012年4月に仙台の宮城学院女子大学に入学。大学時代は底上げ YOUNG の活動に専念。2016年4月より東京の人材系の会社に入社。

## 初めて出会った高校生が社会人になりました



### ～出会いから高校卒業～

**矢部 (以下)** じゃあ出会いから。1月センター試験の前の日か。気仙沼高校でセンター試験あるから前日に気仙沼入りだったんだよね？

**慶治 (以下)** そうそう

**や** それで泊まることないかなって言ってたら望洋で僕が受け入れで会ったんだよね。

**け** そうです。メールとかで連絡をして。

**や** ずっとタメ語の元気の良い高校生だと思ったのが12年の1月。

**真莉実 (以下)** タメ語 笑

**や** まりみはもっと早いよね？2011年の夏とかじゃない？

**ま** 夏でした。お母さんから話聞いてて、社会勉強になるから変な人だけと会ってみなくて。

**や** 変な人だけ？笑 それで、まりみにはAOの勉強見てよって言われたのが…

**ま** 11月くらいが推薦入試だったので、10月頃だったと思います。

**や** そうかー。なんか思い出す？声がかかったとか？

**ま** いや推薦の小論文とか教えてもらった記憶はあまりないです

**や** おい！笑 けっこうやってたから！俺が入れたみたいな感覚なんだけど。

**ま** ないないない！それはないですよ！笑

**け** 笑

**や** こうやって過去ってどんどん盛り上がっていくんだよね笑

まりみは俺が大学に入れたと思ってたのに。

**ま** それはないです。笑

**や** 一応志望の大学には入った？

**ま** 入りました。

**や** それで2012年3月に、もう大学進学するから地元を離れると。そのときにまりみが「地域のために何かやりたいっていう子が周りにいます！」って言ってきて、「地元で何ができるか」「今後の気仙沼について考えよう」みたいなワークショップをやったんだよね。

**ま** はい。

**け** めっちゃおぼえてる。

**や** あのときどうだった？僕的にはけっこう画期的なことやってるなどと思ってたんだけど。

**ま** いやほんとにそうでした。

**け** 6時間ぶっ続けでワークショップやって。

**や** 6時間笑 やり方がわからないから、こっちも。

**ま** ワークショップって言葉も初めて知ったし。

**け** だから何するんだろって。

**や** ワークショップってなにかも知らず6時間か。笑

**け** よく話したよね。参加してほんとによかったなって。なんかすごい空間になって。

**や** すごい空間って具体的にどういう空間だった？

**け** なんか (みんな) そんなに真剣に考えてたんだって。俺は自分の学校の中ではみんなから「そんなに前がお考えないじゃん。俺ら未だそんなんじゃないじゃん。」って言われて

たから。僕が「何かしなくちゃダメじゃないか、なんかしようよ。」って言っても誰も賛同してくれなかった中で、こっちでいざ集まったらこんなにいるじゃないかって。みんな真剣だし、ここにいる人たちと何かしたいって思えた。

**や** なるほどね。楽しそうだったよね、みんな。

**ま** 楽しかったね。

**け** すごい楽しかった。

**や** みんな言わないだけで思いはあるんだってのは感じたな。今考えるとあのタイミングだったからこそみたいなのもあるのかな。

**ま** そうですね。(気仙沼から)出ちゃう最後だからこそ集まったんだと。

### ～震災の話～

**や** 大学行く話の前に震災の話がしたい。震災の時どうだった？

**け** 自分の家が流されて、友達の家も流されて、まあいろいろすごい覚えてる。やっぱり根底に、どうしようもない悔しさはありました。

**や** 何に対して悔しかったの？

**け** 突然変わっちゃったこと。何の前触れもなく急に一日から生活とかが一瞬にして消えたこと。なんで？って。でもそれは対人対国じゃなく、対自然だからぶつけられないじゃないですか。うらめないし。そういうもんだよなと思うしかないんだけど、やっぱりなんで今日なの？って。なんで俺が生きている間に？って。なんであの子だったの？みたいなとか。だか

らやるせない感情が当時は増してた。

**や** そうだよな。まりみは？

**ま** 私はけいじと比べたら家もあって、おじいちゃんおばあちゃんは色々あったけど自分は大丈夫で、もちろん震災は怖かったしなんで自分が住んでいるところ？っていうのはあったけど、特にあの…無感情でした。

**や** 意外。

**ま** はい、意外に。生活もどンドン落ち着いてきて、それだけでもう精いっぱいだったの。それ以上になにか自分もしくちゃとかいう意識も芽生えなかったし、とりえずただ生活ができるようにということだけ考えてました。割と冷めていたとかそういう気持ちでした。

### ～大学生、地元を離れて～

**や** 我々とお会い、ワークショップがあり、二人とも地域をさっていくことになって、その辺の話はどう？二人とも仙台だよな。  
**け** 仙台です。はじめはホームシックというか志津川シックが強くて。その反面、出てこれたなっていう思いもあった。一年間でできなかったことがこれからできるんだっていうワクワクの方があった気がします。僕は。

**ま** 私は高校生の時から仙台に行きたいって。おしゃれな服も売ってるし憧れがあって。だから仙台に出てうれしかった。GWで気仙沼に戻ってきたときに、あ、やっぱりここだ、って思った。岩井崎にけいじとたくまと行って、海のおいを嗅いだ瞬間泣いちゃって。

け なんか震災後に海をあの距離で見たことがなくて。  
や そっか。それが2012年5月か。  
ま 帰ってきたなって。私やっぱりこの人なんだなっていうのをすごい感じてなんかちょっと泣いちゃった。やっぱり大事なんだなって。仙台にいたらあんまり感じないんですけど。  
や 初めに聞いたその話。2012年5月って言ったらちょうど底上げが法人登記したタイミングだわ。そのときに岩井崎で泣いてんだ。YOUNGが立ち上がるタイミングは？  
ま それはもう大学に入る前。なんかワークショップしているときに、けっこう私は熱くなってたんですけど、けいじもそれ以上に熱く話してくれて。たまたま一緒に仙台だし、この人とならできるって感じた。熱量があって人も引き付けるところがあったので、ぜひリーダーやってほしいみたいなことを夜な夜な電話して。それで大学入って仙台で会った時に(けいじが)たくまを紹介してくれて。  
や それから何やろうかなみたいな議論が始まった？  
け ちょっと話したよね。  
ま 最初の3、4ヶ月くらいは自分たちでやるっていうより、呼ばれたのに行くっていう感じでした。  
け それで7月にツアー出しますってなって、じゃあYoungでやっていきましようってなったのが8月。  
ま 私矢部さんに1回相談した。YOUNG 辞めようかかって思ってるって。  
け うーそー笑 知らない。  
ま 一瞬だけど。けいじとたくまは勢いがあるタイプで、私はいらぬいんじじゃないかって考えた時が1回あって。自分の必要性が感じられなくなって。でもそのあとから本当に自分に何ができるのかって考え始めた。  
や なるほどね。そのツアーをやるに至った経緯でどういうふうに進めていったの？  
け 僕が持ってた違和感を形にしよって話になって。当時思っていたのは東北のことをいろんな人や団体が考えているんだけど、うまくマッチングされていないんじゃないかと。それをうまくすり合わせるようなことをしようと思って、じゃあツアーにいようって。震災とかあの景色を五感で感じられるようなツアーを作ればみんなの原体験に近いものが出てくるんじゃないかなと思って、僕の通学路とか家とかたまり場だったところをコースにして周ってみるっていうのをやってみた。参加してくれた人たちの記憶とか思い出とかをもっとすり合わせてこの町のことを考えられるツアーをしよう。  
や なるほど。うまくいかないことだらけだったと思うんだけど、けんかとかしたの？  
ま した。笑 最初はそのツアーをやる目的をみんなで共有できていなくて、だから出るアイデアとかもバラバラで、ちょっ

と作りづらかった。けど毎回終わるたびにみんなで「ここは良かった」「ここはダメだった」ってしっかり振り返りをして。本当にやりたいこととかやるべきことが見えてからはすごいやりやすくなりました。チームのバランスとかもそのころからでき始めて、自分としても何が苦手かっていうのも見えてきて。あとけいじとたくまが一度喧嘩した出来事がのこってる。  
け よく覚えてるね。笑  
ま ミーティングを週一でやるって決めてたんですけど、今日は話すことがないからやらないってなって、その時にけいじはみんながめんどくさいからやらないって言うてるのになって。って。けどたくまは必要ないならやらなくていいんじゃないかっていう意見があって。そこがちょっとかみ合わなくて喧嘩したっていうのがあった。  
や なるほどなるほど、学びだなー。  
ま そう。その二人をみてて、やっぱり意思の疎通って大事だなって思った。  
け 笑  
ま それで、けいじはこう思ってる、たくまはこう思ってるよ、ってちゃんと言ったら仲直りしてくれて。そこら辺からみんなの素が出てきたなー。  
け 素を出していいんだって空気になったよね。これがチームか！みたいなのが出てきた。  
や そうやってYOUNGが活動している一方で、Youthができるタイミングとかぶってたよね。底上げが気仙沼で粛々とやってる姿が見えたと思うんだけど、それはどういふ影響があった？  
ま YOUNGと底上げっていう関わりは減ってきて、でも個人的に休みがあればお話ししに行きたいなっていうのはあったんですけど。  
け そうだね。個人個人で相談とかはあったけど。  
ま YouthができてからはやっぱりなるさんがYouthに近い存在でいたけどどちらかというと仙台で全国の学生向けにツアー作ってるわけだし、気仙沼でフューチャーされなくても仙台で人を集めていけばいいんじゃないかかと思って。  
け でもおれずっとそわそわしてたよ。なんかすげーって。2個下だけどう思えなかった。ずっと。すごいと思ってた。その分危機感じゃないけどもっと頑張らなくちゃって思ってた。彼女らに対して少なからず年上だし、始めたのも早かったし、かつ大学生だって。だからこそ「模範になる」は言い過ぎだけど、もっと先を走っていかなくちゃなって思ってた。  
や けいじはそういうところ強いよね。  
ま そこは私とタイプが違う。私は自分がやるべきことを自分のやるべき場所でやればいいかなっていうところがありました。  
や それで結局何年くらい？けいじがフィンランド行く前まで？

け そうです。そもそも決めてたよね、3年生までにするって。  
や 後輩を作るか作らないか議論とかあったよね。  
け あったあった。たしかに4人でツアー作ってすごい大変だし、毎回ひひ一言ってるけど、だからと言って新しく人をいれることで問題が解決されるかっていうそれは違うんじゃないかって。  
ま 自分たちの本当に共通していう熱量に違う熱量が入ってくることで雰囲気が変わっちゃうのが嫌だっというのがある。自分たちは自分たちでやるっていうこだわりはあった。  
け そう。そこで、終わりを決めようってということと俺らだけで頑張ろうみたいな話になった。だから4人でベストパフォーマンス出せるところまでやるよ、3年生までやるって。  
や なるほど。それで解散して、4人が各々の道に進んで大学を卒業し、まりみが就職し、けいじが半社会人になり、今。  
け そうですね。  
や はえなー五年間。  
け しみじみ笑  
や しみじみだよ、本当に。  
け でも関わってなかったら今の道じゃなかったなって。  
ま 同じくです。  
け YOUNG やってなかったらっていうのもあるし、そもそも底上げに出会ってなかったらこういう学校生活を送ってなかったらどうなるって思うことが多々あって。留学行くにしても、自分に対して意味をつけるというか、「自分はこれやりたいからこの国に行く」っていう風に考えられたのは、底上げと接して学ばせてもらった結果、そういう考え方ができるようになった。半社会人っていう道を歩けているのも、それでいいんだって思っていることに関しても、それが大きい。  
ま 私も底上げとYOUNGに出会ってなかったら、今の仕事は絶対選んでいないです。なんで今の仕事を選んだかとういうと、私はYOUNGで活動していて、自分にとって熱量が一番いいところだったので、人にとって、いる場所って大事だと思ってたんですよ。なので私は仕事で人にそういう場所を提供できる人になりたいなって。仕事を探している人たちが、本当のいるべき場所、ここで自分が輝けるって思える場所にいるお手伝いをしたかったので求人広告が作りたいって思いました。  
や なるほどね。なんていう話だ。(感動)  
ま ツアー作っているときも、ツアーに来た人たちが、そのツアーっていう場所がきっかけで色々なことを感じてくれたりいい方向に人が変わる瞬間はうれしかったので、今後も続けたいなって。  
や おもしろいね、本当に。  
ま 本当にそうなんですよ。

〜今後の話〜  
け まりみ今後どうするの？  
ま 今後は本当に人にとっていい場所を与えられるように求人広告を作りまくりたいし、必死に働きたい。それから先はあんまり考えてない。でも場所は今東京で、今後宮城に帰ってくるのはこれから考えていきたい。  
け 僕はもう帰って今は観光協会で働かせてもらっているけど、留学に至った経緯とかも含め、地域にスポーツの力っていうのが必要だと思っていて、その一つの形を志津川で作りたい。それで今は定期的にあくっていぶ！っていう活動をやっている。来年度からはそれでお金と人を回して、自分の思いを実現させていきたい。

〜底上げてなに〜  
や 底上げは二人にとってなに？  
け 親  
や 笑  
け 親は言い過ぎかな。でもファミリーっていう感じが僕はする。  
や たしかに家族っていう感じがするよね。  
け すごい良い兄ちゃんたちがいるっていう感じがする。  
ま わたしは自分が今本当に弱っているなって時とか、今頑張る時だっていうときには絶対会いたくなる。そういうタイミングで必ず会いに行ってます。  
や すごいね、なんかガソリン屋みたいだね。元気注入みたいな。  
全 笑  
や それはなんでそう思うんだろうね  
ま 特に話はしなくてもいいんです別に。もういるだけでなんか放たれてるんで。それをもらうだけでいいんです。  
や おもしろいー笑 どうなんだろうねこれから。  
ま 今後、底上げがもしいなくなったら、私はどこに自分のエネルギーを注入してもらえばいいだろう。  
全 笑  
や なんだ今の！！  
ま いや、ずっといてくれたらいいなってことです。  
け そういうことね笑  
や じゃあそういう感じで、ありがとうございました。



# 底上げと底上げ

## 東北

### ■ ボランティア

気仙沼市・南三陸町で行っている底上げの活動に参加できるほか、東北の現状を見聞きし、様々な学びを得ることができます。

### ■ インターン

中長期(1ヶ月~1年間、)で底上げと活動を共にします。随時募集中。

### ■ 底上げ Drinks

気仙沼市・南三陸町で月に一回ずつ開催。高校生から大人まで、現地の方々とご飯を食べながらお話できます。

## 関東

### ■ 農業部

栃木県茂木町にて無肥料無農薬のお米作りを実施中。他にも食・農に関するイベントも不定期で行っています。

### ■ Sokoage kitchen

学生から社会人、主婦など底上げに関わる多様な人が集い、東北の食材や農業部で収穫した食材を使った料理を食べる会。隔月で開催。

### ■ 寄付

活動には参加できないけど、底上げを応援したいという方へ。(P.22)

底上げコラボレーション

底上げとの  
コラボ事業  
募集中!

## 収支報告

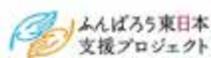
平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

	仮設住宅に住む被災者に対する支援事業	被災者の自立支援事業	ボランティアの需要と供給の創出事業	事業部門合計	管理部門
<b>I 経常収益</b>					
受取寄付金	900,918	2,252,296	450,459	3,603,673	900,919
受取助成金	2,863,313	7,993,284	614,657	11,471,254	1,229,312
その他の収益	12,126	30,316	0	42,442	18,188
経常収益計	3,776,357	10,275,896	1,065,116	15,117,369	2,148,419
<b>II 経常費用</b>					
役員報酬	0	5,400,000	0	5,400,000	0
給料手当	0	2,850,000	0	2,850,000	0
法定福利費	1,430	3,576	715	5,721	1,430
荷造運賃	0	15,563	0	15,563	0
会議費	7,646	90,639	942	99,227	1,884
旅費交通費	40,532	2,332,634	16,846	2,390,012	33,692
通信費	38,491	318,692	16,722	373,905	33,444
消耗品費	133,210	322,383	40,222	495,815	80,444
修繕費	1,812	4,530	906	7,248	1,812
水道光熱費	75,086	187,716	37,543	300,345	75,086
新聞図書費	16,335	15,894	2,790	35,019	5,580
支払手数料	6,382	18,762	3,191	28,335	6,382
車両費	76,613	438,423	19,907	534,943	39,813
地代家賃	107,860	690,750	50,930	849,540	101,860
賃借料	0	17,700	0	17,700	0
保険料	62,474	156,186	31,237	249,897	62,473
租税公課	2,670	8,976	1,335	12,981	2,669
印刷製本費	13,850	731,563	6,925	752,338	13,849
謝金	344,020	785,050	17,010	1,146,080	34,020
研修費	5,052	44,630	2,526	52,208	5,052
経常費用計	933,463	14,433,667	249,747	15,616,877	499,490
当期経常増減額	2,842,894	-4,157,771	815,369	-499,508	1,648,929
<b>III 経常外収益</b>					
受取利息	0	0	0	0	1,972
雑収入	0	0	0	0	35,260
経常外収益計	0	0	0	0	37,232
<b>IV 経常外費用</b>					
税引前当期正味財産増減額	2,842,894	-4,157,771	815,369	-499,508	1,686,161
法人税、住民税及び事業税					399
当期正味財産増減額					1,186,254
前期繰越正味財産額					5,169,143
次期繰越正味財産額					6,355,397

## メディア

日付	メディア名	見出し／番組名／出演者
2015.4.15	三陸新報	成宮崇史 リレー随想
2015.5.3	三陸新報	気仙沼風連合会 協力団体として
2015.5.15	三陸新報	底上げ天旗制作
2015.6.25	朝日新聞宮城版	底上げ Youth 活動紹介
2015.6.26	三陸新報	底上げ 国境なき僧侶団寄付団体として
2015.6.29	さきたま新聞	底上げ 煙雲館案内人として
2015.7.5	三陸新報	底上げ けせんぬま創生戦略会議分科会委員として
2015.8.15	市議会だより	底上げ成宮崇史 青少年健全育成推進大会記念講演
2015.9.1	まちづくり通信	成宮崇史 わらすのわ、つたえる講座
2015.9.10	三陸新報	けせんぬま創生戦略会議
2015.9.15	三陸新報	けせんぬま創生戦略会議分科会プレゼンテーション
2015.12.31	三陸新報	震災心のケア 成宮講演
2016.1月号	まちづくり通信	成宮講演
2016.2.1	テレビ東京	「TOKYO ガルリ」成宮
2016.2.14	NHK	「明日へつなげよう」気仙沼高校生ワークショップ 底上げ Youth
2016.2.19	三陸新報	日の出風、天旗プロジェクト 成宮
2016.2.23	三陸新報	ばばの場プロジェクト 成宮
2016.2.26	三陸新報	観光誘致 写真 成宮
2016.2.28	NHK	「明日へ 1min.」底上げ Youth
2016.3.24	三陸新報	底上げ Youth 報告会
2016.3.24	K-NET	底上げ Youth 報告会

## 助成・寄付団体

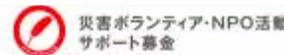


みんなでがんばろう●日本

公益財団法人東日本大震災復興支援財団



公益社団法人宮城県観光連盟



その他多数のご寄付を有難うございます。

# NPO 法人底上げについて

## 所在地

〒 988-0023 宮城県気仙沼市南が丘 2-2-12

TEL 0226-25-9670 FAX 0226-25-9670

Email info@sokoage.org

http://www.sokoage.org/

facebook でプログラム情報を配信中!



NPO法人 底上げ



底上げ Youth



COM



底上げ農業部



ロールプレイング  
気仙沼

## 運営体制

理事長	矢部寛明	理事	戸越祐佳
副理事長	齋藤祐輔		野間口侑基
理事、気仙沼事務局長	成宮崇史		齋藤裕輔
南三陸スタッフ	野田篤秀		中野健二郎
インターン	宮内康幸		天貝祐樹
	小野寺真希		金指了
	小山茉莉		喜内尚彦
	神谷玲伊奈	監事	戸越正路
		顧問税理士	滝澤正樹

Special Thanks 底上げにかかわる全てのみなさま

Designed by Nao Kato

## ご寄付について

皆様からご支援頂いた寄付金は、復興支援事業、地域の若者育成事業、交流事業に使わせていただきます。

NPO法人底上げの活動にご賛同頂ける方からの温かいご支援をお待ちしております。

### ゆうちょ銀行

口座種別：振替口座

口座名：特定非営利活動法人底上げ

記号番号：02290-9-120905

### クレジットカード

信頼資本財団・底上げ

検索







〒 988-0023  
宮城県気仙沼市南が丘 2-2-12